輪島 避難所の半数超 地震発生時 備蓄なし

市「予算不足」防災計画で確保規定

能登半島地震で甚大な被害があった石川県輪島市が、指定避難所の半数超の26カ所に、地域防災計画で確保が求められた食料など必要物資の備蓄をしていなかったことが18日、市などへの取材で分かった。地震で道路が寸断し、発災後の数日間、備蓄のない避難所では防寒具や食料が不足した。輪島市は予算不足などを理由としており、見直す方針を示している。

同じく大きな被害を受けた珠洲市では配備されており、地域差が浮き彫りになり、各地で点検が迫られそうだ。

輪島市は国の防災基本計画などに基づき、地域防災計画を作成。2013年に「指定避難所や近くに地域完結型の備蓄施設を確保」するよう努めるとの趣旨の文言を盛り込んだ。市は被災者が一定期間避難生活を送るための避難所を48カ所指定しているが、今年の元日時点で学校や道の駅など26カ所に備蓄施設はなく、食料や飲料水、簡易トイレなど避難生活に必要な物資がなかった。

市によると、07年の地震の最大避難者数が約2600人だったことから、人口減を考慮して約1800人の3食分である5400食を指定避難所の公民館など22カ所と指定避難所ではない市の防災倉庫1カ所に配分するにとどまっていた。

輪島市では今年1月4日時点で、指定避難所に約730人が避難。地震発生間もない頃には、避難者が自宅から食料や毛布を持ち寄りしのいだ避難所もあった。

献金勧誘 最高裁初判断へ

旧統一教会被害 6月に弁論

世界平和統一家庭連合（旧統一教会）から高額な献金や物品購入の勧誘を受けた女性信者の遺族が教団側に損害賠償を求めた訴訟の上告審で、最高裁第1小法廷（堺徹裁判長）は18日、当事者双方の意見を聴く弁論を6月10日に開くと決めた。教団側による勧誘行為を巡り、最高裁が判断するのは初めて。

最高裁の弁論は結論を変更するのに必要な手続きで、遺族側の敗訴が見直される可能性がある。この女性信者が献金などに関し、教団との間で「損害賠償などの裁判を一切起こさない」といった内容の念書に署名していた点が争点となる見通し。一、二審判決は署名の有効性を認め遺族側の請求を退けていた。

二審東京高裁判決によると、女性信者は所有していた土地の売却で得た代金や、夫の財産を教団側に献金するなどした。

訴訟で遺族側は、女性信者が当時高齢で認知能力も低下していたとして、念書の信用性は認められないと指摘。裁判を起こさないとの内容も「公序良俗に反し無効」と主張した。一方、教団側は「女性信者は正常な判断で署名しており、訴えは不適法」と反論した。

2021年の一審東京地裁判決は、女性信者が自ら希望して念書を作成し、教団側とのやりとりにも不審な点はないとして「念書は正常な判断能力で作成された」と判断。両者間には「裁判をしないという合意が有効に成立している」として訴えを却下した。22年の二審判決も支持した。

訴訟は女性信者が原告となり、教団側に1億8千万円余りを請求。その後の死亡に伴って遺族が引き継ぎ、上告段階では請求額を6千万円余りに減らした。

邦人女性の伯母「夫と計画」自白

比2遺体事件 身柄確保

【マニラ共同】フィリピン北部ルソン島のケソン州タヤバスで日本国籍の女性モテギ・マイさん(26)とフィリピン国籍の母(54)の2遺体が見つかった事件で、地元捜査関係者は17日、母の姉に当たる伯母が昨年12月から夫と計画して犯行に及んだと自白する動画を入手したと明らかにした。

伯母は逃亡先のアルバイ州ピオドゥランで殺虫剤を摂取して自殺未遂を起こし、搬送先の病院で警察が身柄を確保した。伯母はケソン州の病院に移送され、集中治療室で手当てを受けている。

強風 長野では屋根飛ぶ被害

高森・飯田で下草火災も

西高東低の気圧配置となった18日、県内では風が強まり、長野市では屋根の一部が剥がれる被害が少なくとも2件発生。下伊那郡高森町と飯田市では風で燃え広がったとみられる下草火災が2件あった。いずれもけが人はいない。長野地方気象台は諏訪地域に一時強風注意報を出した。

長野市消防局によると、同日午前11時10分ごろ、同市戸隠豊岡で土蔵の屋根の一部が強風で飛ばされ道路をふさいでいる―と119番通報があった。屋根の金属板1枚が飛ばされ、電柱に引っかかった。同11時20分ごろには、同市若里6のスイミングスクールの屋根が飛ばされそうになっている―と119番通報があった。屋根の金属板（長さ20㌢、幅30㌢）4枚が飛ばされ、2枚が剥がれかけた。

一方、高森町山吹の果樹園で下草約5700平方㍍、飯田市伊豆木では下草や山林計約1400平方㍍を焼く火災があった。飯田署はともに、風で火が燃え広がったとみている。

気象庁によると、同日午後4時までの最大風速は諏訪12・4㍍、松本今井11・8㍍、東御10・8㍍、飯田10・4㍍、長野9・6㍍など。

スイミングスクールの屋根を補強する消防職員＝18日午後0時8分、長野市若里6

県北部や菅平 あす大雪恐れ

長野地方気象台は18日、西高東低の気圧配置の影響で、県内は20日から21日ごろにかけて北部の山沿いと中野飯山地域、上田地域の菅平周辺で大雪となる見込みと発表した。上空の寒気が予想より強まるなどした場合、大雪警報を発表する可能性があるとしている。大雪や路面の凍結による交通障害に注意するよう呼びかけている。

20日午後6時までの24時間予想降雪量は、いずれも多い所で北部と中部20～40㌢、南部10～20㌢。21日午後6時までの24時間予想降雪量は、いずれも多い所で北部40～60㌢、中部10～20㌢、南部5～10㌢となっている。

篠塚建次郎さん死去

75歳 パリダカで日本人初V

パリ・ダカール・ラリー（通称パリダカ）と世界ラリー選手権（WRC）で日本人初優勝を果たした篠塚建次郎（しのづか・けんじろう）さんが18日午前、膵臓（すいぞう）がんのため諏訪市の病院で死去した。75歳だった。葬儀は家族葬で執り行い、後日お別れの会を開く。

東京都出身。東海大入学後にラリーを始め、卒業して三菱自動車入社。社員ドライバーとして国内ラリーに進出。排ガス規制に伴う会社のラリー活動休止でサラリーマンに徹した後、海外ラリーに進出。活躍した時期を挟み、1986年からパリダカ参戦を開始。参戦12年目、48歳だった97年に四輪部門で日本人初のパリダカ総合優勝を果たした。優勝車の三菱パジェロは人気車種となった。

WRCでは91年のアイボリーコースト・ラリーで三菱ギャランに乗って日本人初優勝を果たし、翌年も制覇。名実ともに日本を代表するラリー・ドライバーとなった。

2002年のパリダカ総合3位を最後に三菱自動車を退社。03年からはプロドライバーとして日産自動車と契約するなど、07年までパリダカに出場した。

小島 森三さん（こじま・もりぞう＝元上水内郡戸隠村長）長野市の病院で死去。97歳。旧戸隠村（現長野市）出身。自宅は長野市上駒沢。葬儀は19日午後3時から長野市吉田2の10の5、JA虹のホール吉田で。家族葬で行う。喪主は長男の一男（かずお）さんと長女の高木（たかぎ）ちどりさん。村教育長などを経て、90年11月から村長を1期務めた。

いのまた むつみさん（イラストレーター、デザイナー、本名非公表）10日午前3時、自宅で死去。横浜市出身。葬儀は近親者で行った。

小説「宇宙皇子（うつのみこ）」「風の大陸」各シリーズの表紙、挿絵を担当したほか、ゲームティルズ オブ シリーズの多くのキャラクターデザインを手がけ、繊細で華やかな画風で人気を博した。

鍬を握る 21

満蒙開拓からの問い

第3部 国策の影 いまも ④

50代で妻は逝き 得られぬ支援

日本語のテキストに指を添わせ、一文字一文字、丁寧に読み上げていく。「おからだ、ふきましょうか」「おねがいします」。2月1日、上田日中友好協会が上田市の「室賀温泉ささらの湯」で開いた日本語教室。帰国した中国残留日本人1世と2世の計7人が、介護の現場で交わされる会話を学んだ。ボランティアに導かれ、孫祥（スンヤン）さん(91)＝埴科郡坂城町＝も一生懸命に日本語を発音した。

協会は月2回、上田地域などの中国帰国者向けに、ささらの湯で教室を開いている。一緒に昼食も食べ、お風呂へ入って帰宅する。それぞれ高齢となり、言葉が伝わらないため地域でも引きこもりがちで、この日は楽しそうな中国語が飛び交った。

だが終わりに近づくと、孫さんは日本語と中国語を交えて漏らした。「独りで寂しい。娘、別々。仕事ない。年取ってずっと1人でいるから、日本語も中国語も忘れかけている。孤単（クーダン）（孤独だ）」―。

テキストを懸命にたどって日本語を練習する孫祥さん（中央）＝2月1日、上田市

孫さんは、中国残留孤児の故山城和四（かずし）さんの夫。和四さんは更級郡村上村（現坂城町）出身で、更級郷（ごう）開拓団の一員として満州（現中国東北部）に渡った。夫妻は中国・黒竜江省の勃利県から1987年7月、子ども7人のうち3人を連れて来日。坂城町内で暮らし始めた。孫さんは54歳、和四さんは52歳。後に、他の子ども4人も来日した。

孫さんは、日本語を学ぶ間もないまま製造業の工場で働いた。時給は当時600円ほど。生活は逼迫（ひっぱく）していた。

和四さんは、家族で日本に来られたことこそ喜んだが、慣れない暮らしで持病が悪化。医療費の心配から受診を控え、中国から送ってもらう薬を飲み続けた。定期健診を受ける方法も分からなかった。来日から1年半ほどの89年3月の朝、自宅で倒れ、病院に運ばれたまま亡くなった。

「日本に来てから、何の楽しみも味わう間がなかった」。来日時、小学6年だった末娘の三浦奈美さん(49)＝長野市＝は母を悼む。和四さんは、最期に中国語で奈美さんの名を呼んだという。

孫さんは62歳で退職後も、別の会社に移って75歳まで働いた。2014年、帰国した残留日本人本人の死後に、その配偶者が困窮しないよう、日本政府は新たな支援金制度をつくった。孫さんも町役場に問い合わせた。だが対象外だった。対象になるのは残留日本人本人が60歳以上で死亡した場合。和四さんは亡くなった時、54歳だった。

中国残留日本人の配偶者への支援　中国残留孤児たちによる国家賠償訴訟をきっかけに日本政府が2008年に創設した新支援制度で、帰国した残留日本人の配偶者も支援給付（月額最大8万円）を受けられるようになった。14年には残留日本人の死後に配偶者が困窮しないよう、満額の老齢年金の3分の2相当額（23年度は月額約4万4000円）の支援金制度を設けた。厚生労働省によると、支援給付は老後の経済的安定を図ることが目的だとして、60歳以上で死亡した残留日本人の配偶者を対象としている。

独り日本で 法のすきまに

「すべての配偶者に支援給付・配偶者支援金を！」。中国残留孤児国家賠償訴訟の弁護団全国連絡会などは23年7月、訴訟終結後も毎夏に行っている厚生労働相との面談で、六つの要望事項の筆頭に配偶者への支援拡充を掲げた。孫さんのような例は少なくないからだ。「法のすきまとも言える不合理な格差だ」。連絡会の米倉洋子弁護士（東京）は国の対応を注視する。

孫さんは現在、生活保護を受給する。来日当初から住む町営住宅は老朽化し、入居者が減ってがらんとしている。娘と同居したいが、子ども世帯の収入が考慮されて受給額が減ったり、もらえなくなったりする可能性があり、独り暮らしを続ける。

「自分に力があれば養えるのに…」。奈美さんは自分を責めてしまう。足じげく通い、料理を作り置きして帰る。娘の車が見えなくなるまで、外に出て手を振る孫さん。バックミラーに小さく映る父の姿に、いつも泣けてくる。

情報や感想 こちらへ

連載へのご意見、ご感想をお寄せください。情報提供もお待ちしています。名前、連絡先（電話番号やメールアドレスなど）を明記してください。〒380－8546　長野市南県町657　信濃毎日新聞社編集局「鍬を握る」取材班（ファクス026・236・3017、メールkuwa@shinmai.co.jp）

この連載は「信濃毎日新聞デジタル」の特設ページでもお届けします。

情報・写真お寄せください

気になること、おかしいなと思うことを記者が調査・取材します。

ファクス 026(236)3196
郵送 〒380-8546 コエチカ取材班

インスタやってます

若手の一押しを投稿しています！

SHINMAI_SHIMBUN

こと映え

【4月のお題】
▽前途洋々
▽一場の春夢
▽思えば思わるる

メール kotobae@shinmai.co.jp
郵送 〒380-8546 こと映え係

HÔTEL de L'ALPAGE
TATESHINA, JAPON

カシミアの手触りの「上質な日常」をお過ごしいただける
十二室のオーベルジュ

誕生。

HÔTEL de L'ALPAGE（ホテルドゥラルパージュ）は、
蓼科高原ホテルハイジが歴史を積み重ねてきた場所に誕生いたします。
四季の移ろいを感じる蓼科湖近くの丘の上、旧宮家別邸の跡地にふさわしく閑静なロケーション。
フランスの美食の伝統を踏まえたお料理と、フランスから直接輸入したワインをご用意しております。

ホテル概要
・敷地面積 / 約23,000㎡　・客室数 / 12室（61～126㎡）　・屋外駐車場 / 25台（車椅子使用者用スペース1台）　・ウィンターガーデン（屋内94㎡の多目的空間）
・レストラン「ル・ジャルダン」（フランス料理）　・バー「ル・レーヴ」（ライブラリー・シガールーム併設）　・授乳室　・多目的トイレ

391-0301 長野県茅野市北山4035-1820　Tel. 0266-67-2001
hotelalpage.com